JRP/ 現研　公開講座

シンポジウム

「肖像写真」

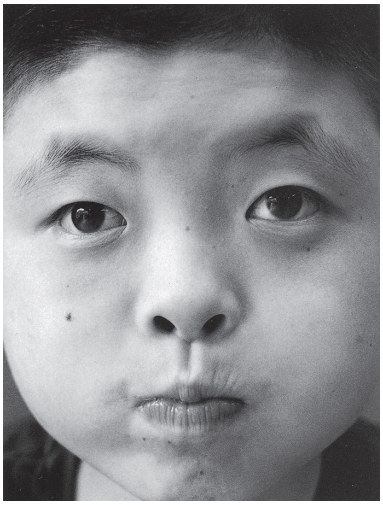
写真展示　現研6F ギャラリー
7 月 15 日～ 8 月 6 日

写真トーク　松岡斉　山口保　古屋行男　　進行 / 金瀬胖

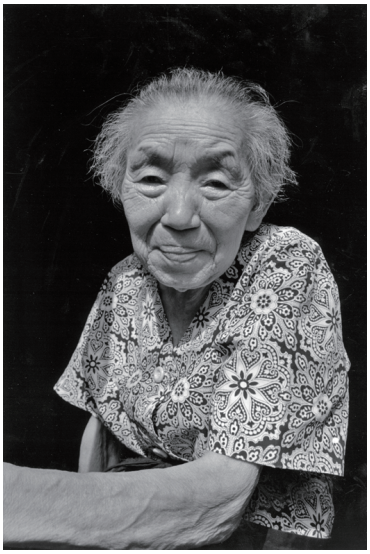
2016 年 7 月 30 日（土）午後 3 時～ 5 時　現研6F 教室　受講一般 1,500 円　JRP 現研生 1,000 円
受講申し込み　JRP/ 現代写真研究所事務局　03-3359-7611

写真は絵画から「肖像」を引き継いだ。上野彦馬が撮った坂本龍馬、ナダールが撮ったボードレールなどの肖像写真は、社会に写真の時代の到来をつげるものだった。後世の写真家に多大な影響をもたらし、今も新たな覚醒と震撼を持って見られている。それはまさに写真の原点ともいえるし、時代のジャーナリスティックな記録であるだけでなく、人間と歴史認識の底流を成しているとも言えるだろう。今回は、その写真の原点とも言うべき肖像写真を撮っている 3 人の写真家に登場してもらう。写真はそれぞれのモチーフとテーマ〈農村の高校生、特別支援学校の子ども、本郷の町衆〉に拠るが、その写真を見るとき、それはまさに肖像によるこの時代の記録と言えるだろう。撮影の心底の意図も、情熱も、格闘も曝け出して写真を語っていただきます。

写真展「19 歳の訪問」より



写真集「鏡」より



写真集「町のとしつき」より

松岡 斎
1934 年　高知県生まれ
農業高校を卒業後、開拓農業に従事。父が殺害され、それを転機に村を出る。26 歳で東京農大に入学。プロカメラマンを志すも挫折。茨城で高校教師をしながら地元の民俗行事、高校生を撮り、人生の変転の不思議さを考えた。
身近なところにテーマを求め、時間をかけて撮り、本にまとめることを信念とする。師と仰ぐアマチュア写真家、熊谷元一、増山たづ子、宮本常一。

山口 保
1948 年　千葉県生まれ
油彩やオブジェの制作を経て 1985 年ころより写真制作に入る。
1992 年写真集「鏡」、2011 年写真集「海片」、2014 年写真集「時軸」（JRP 年度賞受賞）PLACE-M などで個展多数。
私が特別支援学校で出会った子どもたち。彼らのポートレートを撮ることで彼らの自我、個性、生きる人としての重み。これらあたりまえのことを、改めて私は感動的に確認した。

古屋 行男
1947 年　東京都生まれ
以来東京本郷にくらす。1999 年現研基礎科に入学。現在同ゼミに在学中。
2006 年写真集「本郷の坂道」、2010 年「町ぐらし」、2015 年「町のとしつき」を出版。同内容の写真展をコニカミノルタプラザ、フジフォトサロンなどで開催。
「町からさまざまなものが消え失せるが、古里を人間の街にしていこうとする人々がいる」（「町のとしつき」）